



“地域”と共に —欧州—の親日国 ポーランド ワルシャワより—



ワルシャワ日本人学校 月岡 恵理



昨年の学習発表会開会式的一幕
(大勢の現地の方にもご参観いただきました)

イメージを超えた「親日国ポーランド」「共助の国ポーランド」です。日本と同様ポーランドに深く根付いている共助の心により、日本とポーランドの間には温かな友好が育まれ、昨年は国交樹立100周年を迎えました。

ポーランドの共助の心は、ごく身近なところにあります。駐在員の中で有名な話が、「子どもを公園などで遊ばせる際の服装に十分気をつけよ」というものです。子どもが少しでも薄着ならば、全く面識のない人でも、外国人であっても、「子どもにそんな格好をさせてはいけない」と注意し合うのがポーランドです。しかし、この「子どもをみんなで育てる」という考え方は、私にとって珍しいものではなく、むしろ「地域との連携・協働」という信州の教育が大切にしている考え方と同じだと、深い親近感を覚えました。

ワルシャワ日本人学校は、現在児童生徒数9名と極小

規模校です。大勢の仲間と意見を交換し合ったり、力を合わせたり、衝突したりという経験が少ないため、子どもたちには少し可哀想な環境だと感じる部分も正直あります。しかし、それ以上に、国内・他国にはない素晴らしい繋がりを覚えることができる環境だという自負もあります。

例えば運動会。本校の運動会は日本人会との共催によるものですが、昨年度は国交樹立100周年の記念大会と銘打って参加を呼び掛けたところ、予想以上の大勢の方々にご参加いただきました。更に昨年度は、現地の方々の参加も例年になりに多く、国際交流の場としての目的も果たすことができました。これは、日本人会はもとより商工会にもご協力いただき、日本人コミュニティだけではなく、ポーランド人コミュニティにも呼びかけることができたからです。また、学習発表会にも毎年大勢の方々にご参観いただいています。「日本人学校を盛り上げたい」「子どもが頑張っている姿を応援したい」と皆さん積極的にご参加くださり、学校と“地域”の近さを強く感じます。

ワルシャワ日本人学校の子どもたちは、こうした経験を通して、様々な繋がりを身近に感じながら共助の心を育てています。

私は、ポーランドでの生活を通して「地域と繋がる大切さ」を改めて思い知ると共に、その繋がりを築いてくださった方々への感謝の念が堪えません。

私は、ポーランドでの生活を通して「地域と繋がる大切さ」を改めて思い知ると共に、その繋がりを築いてくださった方々への感謝の念が堪えません。



日本人会・日本人学校共催大運動会（昨年は140名の方々にご参加いただきました）